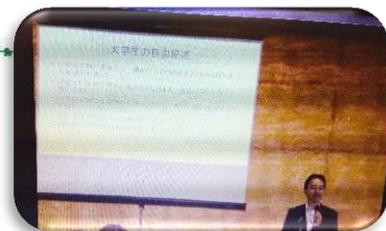


# 第 1 回セミナー

6月9日（火）に第1回セミナーが行われ、東北福祉大学教育学部の大西孝志先生に『聴覚障がい教育に携わる教師に必要な専門性』というテーマで講演していただきました。



## 〈主な研修内容〉

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1 これからの教育について        | 4 聾学校における教科指導について   |
| 2 聴覚障がい教育における専門性について | 5 言語（日本語）指導の専門性について |
| 3 言語の特異理解について        |                     |

1 15歳未満の子どもの数は過去最低を記録したが、特別支援教育を受けている子どもの数は増えている。

『一人一人のニーズに合わせた』  
『個に応じた』  
『自立と社会参加を目指した』

**特別支援教育の視点が重要になる!!!**

2

- ◇頭・育ち・顔がよい
- 教師の要件【斎藤喜博氏より】
- ◇聴覚障がいを理解する
- ◇日本語と手話の違いを理解する
- ◇「教育」と「福祉」の線引きを明確にする
- ◇子供から「専門性」を見つける

勉強しつづける  
感動する心  
笑顔😊

3 例えば・・・こんな『言語の特異理解』  
「5000円ありがとうございました。」

「ご声援ありがとうございました。」

授業で、子どもたちは、何をわかって反応しているか？

4 「準ずる教育を施す」  
しかし・・・小学校等とまったく同じではない

各教科等の指導に当たっての配慮事項  
言語指導と教科の指導の境界線  
・・・しっかりできていますか？

5

- ◇漢字の正しい読み方の修得が難しい。
- ・「読み」は、先生が手話で指導しても習得できない。指文字や空書などが必要。
- ◇日本語も手話も言語だから同じではない。

聴覚障がいのある子どもの実態を踏まえた指導が必要である。

## 〈まとめ〉

- ◇指導に適した時期を逃さないこと。
- ◇丁寧なことばがけを劣らないこと。
- ◇よい経験をたくさんさせること。
- ◇経験とことばを結びつけ、ことばで経験が引き出せるようにしておくこと。
- ◇「学力やことば」だけではない「生きる力」を育てること。